

# 5) 建造物琉球漆塗・琉球赤瓦製作施工 文化財保存技術（伝承）事業

幸喜 淳<sup>1</sup>・佐久本 純<sup>1</sup>・鶴田 大<sup>1</sup>・嘉手苺 なつき<sup>1</sup>

キーワード：漆 赤瓦 瓦葺き 伝統技術 継承

## 1. はじめに

沖縄の伝統的建造物保存に必要な2つの分野、すなわち(1)伝統技法による漆塗装、(2)手作り瓦の製作・葺きについての技術者の養成を行う目的で、令和2年度より文化庁の助成を受けて開始した事業である。現在、琉球王国時代以来の伝統技法による漆塗装、手作り瓦の製作・葺きの技術は活用機会の少なさも、その継承が困難な状況となっている。そこで、現在では数少なくなった技術者や、漆・瓦に関わる専門的知見を持つ識者を講師に招いて技術伝承者の養成を行った。

本事業は本年度以降も継続的な実施を予定しており、所定のカリキュラムを修めた者は今後、県内指定文化財建造物などの建造物漆塗装、瓦製作・葺きで活躍することが期待される。

## 2. 研修内容

本年度も昨年度に引き続き、建造物琉球漆塗分野と、琉球赤瓦製作施工分野(古瓦製造と瓦葺き)の3分野に分け、より深い内容の実習・講義を実施した。建造物琉球漆塗分野4名、琉球赤瓦製作施工分野は古瓦製造5名、瓦葺き5名がそれぞれ受講した。新型コロナウイルス感染症の感染防止に配慮しながら、開講式は令和4年9月15日(木)に実施し、文化財保存・伝承に関する共通講義も12月に実施した(写真-1)。研修カリキュラムの計画は、建造物琉球漆塗分野では計75時間(講義11時間、実習64時間)、琉球赤瓦製作施工分野の古瓦製造は計75時間(講義12時間、実習63時間)、瓦葺きは計64時間(講義12時間、実習52時間)とした。また過年度実現が叶わなかった県外研修を実施することができ、本事業としては初めてすべてのカリキュラムを遂行することができた。

表-1 実施研修内容一覧(敬称略)

3分野共通講義		
令和4年 9月15日(木)	沖縄の建築と技術	株式会社国建平良啓
	琉球王国文化遺産集積・再興事業について	沖縄県立博物館・美術館 外間一先
12月16日(金)	文化財概論と保存修理概論	文化庁 文化財調査官 結城啓司
令和5年 3月16日(木)	首里城正殿復元事業について	(一財)沖縄美ら島財団 幸喜淳
建造物琉球漆塗 専門講義		
令和4年 12月16日(金)	漆器の文化財保存修復について	琉球漆工藝舎 土井菜々子
	彩色文化財の修復について	東京藝術大学 大学院 荒井経
建造物琉球漆塗 専門実習		
11月16日(水) ～令和5年 2月1日(水)	髹漆実習等	株式会社 漆芸工房 諸見由則
2月15日(水) 2月16日(木) 2月17日(金)	建造物彩色 【桐油彩色】	有限会社 彩色設計 小野村勇人
建造物琉球漆塗 専門講義・専門実習		
3月9日(木)～ 3月10日(金)	建造物塗装基礎	(公財) 日光社寺文化財保存会 佐藤則武
建造物琉球漆塗 県外研修		
令和4年 8月4日(木)～ 8月6日(土)	保存修理現場見学(東京都・栃木県)	(公財) 日光社寺文化財保存会 佐藤則武

<sup>1</sup>琉球文化財研究室

琉球赤瓦製作施工 古瓦製造・瓦葺き 共通講義		
令和4年 9月15日(木)	沖縄の瓦の 歴史	沖縄国際大学 上原静
令和5年 3月15日(水)	伝統瓦基礎	日本伝統瓦技 術保存会 長谷川成幸
3月16日(木)	瓦の材料・ 製作	沖縄県工業技 術センター 元所長 与座範弘
琉球赤瓦製作施工 古瓦製造 専門実習		
令和4年 9月27日(火)～ 10月3日(月)	赤瓦伝統製 作技術 【前期】	沖縄県赤瓦事 業協同組合 八幡昇
令和5年 1月11日(水)～ 2月24日(金)	赤瓦伝統製 作技術 【後期】	沖縄県赤瓦事 業協同組合 八幡昇
琉球赤瓦製作施工 瓦葺き 専門実習		
令和4年 10月28日(金)～ 10月29日(土)	赤瓦葺き 基礎	沖縄県琉球赤 瓦漆喰施工協 同組合
11月11日(金)～ 11月12日(土)	赤瓦漆喰塗 基礎	田端忠・ 大城幸祐・ 山城富函・ 城間盛行
11月18日(金)～ 11月19日(土)	赤瓦漆喰塗 上級編	
琉球赤瓦製作施工 古瓦製造・瓦葺き 県外研修		
6月3日(金)～ 6月6日(月)	保存修理 現場見学 (奈良県)	日本伝統瓦技 術保存会

### 3. 成果と課題

#### 1) 建造物琉球漆塗

琉球漆工藝舎の土井菜々子氏による漆器修復についての講義では、文化財の痛み具合を十分に把握し、復元・再現ではなくこれ以上劣化をさせない現状保存修理の難しさを学んだ。東京藝術大学大学院の荒井経氏による彩色文化財の修復についての講義では、膠を使用した建造物修復についての事例や色材の分析調査についてお教え頂いた。

実習については、より現場に近い内容を目指し諸見由則氏の実習にて1m大の向拝柱を模した紙管(曲面)への髹漆実習を実施し、有限会社彩色設計小野村勇人氏(京都府)の実習でさらに桐油を用いた纏縹彩色等の技法実習を実施した(写真-2)。また(公財)日光社寺文化財保存会の佐藤則武氏(栃木県)を講師に招き、日光の建造物漆塗装の仕様を学びながら、木鼻への髹漆や金箔押しの実習を実施した。

県外研修では、沖縄県内の漆職人が多く漆を仕入れている東京都の藤井漆工藝株式会社を訪問し、

伝統的な漆精製の技術を見学した。栃木県では(公財)日光社寺文化財保存会の佐藤氏案内のもと日光の二社一寺(東照宮・二荒山神社・輪王寺)漆塗技術を実見した。また、先方のご厚意により(公財)日光社寺保存会が主催する研修に2名派遣することができた。次年度は上級編と初級編と分け、さらなる技術向上と技術者の養成に努めたい。

#### 2) 琉球赤瓦製作施工 古瓦製造・瓦葺き 共通講義

沖縄国際大学の上原静氏による講義では、琉球王国の屋瓦と歴史について学んだ。特に明朝系赤瓦についても考古学の視点から歴史的な位置づけや地理的背景についての興味深い研究成果の要所についてお話頂き、琉球瓦の技術伝承が沖縄のみならず東アジア全体において重要だと再認識した。与座範弘氏の実習では、赤瓦の原料として用いられるクチャや石川赤土等の土に焦点を当て、化学的特質および収縮率(寸法)・吸水率・強度・呈色の知見をお話頂き、手作り瓦のより効果的な実用化について考えを深める内容となった。日本伝統瓦技術保存会(奈良県)の長谷川成幸氏の講義では、型紙を用いて描く瓦屋根施工の原寸図の書き方を実践方式でお教え頂いた。瓦屋根の原寸図は沖縄ではあまり見られないが、本土では大工・棟梁とのやりとりで欠かせないものであると共に、屋根組から屋根の構造の体感的把握において最も有効な手立てであり、受講生も現場を意識して講義・実習に取り組むことができた。

県外研修においても、奈良県の日本伝統瓦技術保存会を訪問し、瓦屋根施工の原寸図の製作や、原寸大の架台による瓦施工実習を見学し、県外の職人の意識の高さを実感した。また、山本瓦工場(同県)にて復元された手づくり瓦の道具を見学することができた。

#### 3) 琉球赤瓦製作施工 古瓦製造 専門実習

古瓦製造の実習でも、より実用的な瓦の製作を目指し、足踏みによる土練りの試行や、桶巻道具の大きさをより正確に揃え、製作した瓦の大きさが揃うよう意識した(写真-3)。また今後の基準となる瓦の仕様を作成するため、沖縄県工業技術センターで針入硬度計などによる胎土の適正な粘性の把握に努めた。次年度以降も引き続き、製作工程を繰り返す、瓦の仕様を意識したより品質の高い瓦作りを目指したい。

#### 4) 琉球赤瓦製作施工 瓦葺き 専門実習

瓦葺き分野の実習では、沖縄県内の神社仏閣や首里城正殿の反りを意識し、宮大工棟梁の製作による反り棟(2m大)の架台を施工した。架台の大型化により、屋根に乗って実践的な作業実習が可能となった。また、講師の計らいにより50年

以上前の古瓦（手作り瓦）を使用し、瓦の大きさを5ミリ毎に分け、架台の反りを意識した瓦の割付け方法など、より本格的な施工実習となった(写真-4)。次年度以降も、実寸大の架台を活用し伝統的かつより高度な技術を習得できるよう実習を行う予定である。

#### 4. 外部評価委員会コメント

伝統技術の解明と人材育成の必要性が強調されているが、その先行的取り組みとして特筆できる。  
(高良顧問：琉球大学名誉教授)



写真-1 共通講義の様子



写真-2 建造物彩色実習



写真-3 赤瓦伝統製作技術【前期】実習



写真-4 赤瓦漆喰塗基礎 実習